

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 9 月 29 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
タンザニア、ダルエスサラーム・キゴマ・ゴンベ国立公園・ルアハ国立公園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
タンザニアツアー
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 9 月 13 日 ~ 平成 29 年 9 月 22 日 (10 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
株式会社マイチケット、JAPAN TANZANIA TOURS 京都大学理学研究科 仲澤伸子氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
目的
・ゴンベ国立公園、ルアハ国立公園における、チンパンジーやその他野生動物の観察 ・ダルエスサラーム・キゴマの市内見学
行程
9月13日(水): 関西空港発、移動 14日(木): ダルエスサラーム着 15日(金): キゴマ市内見学、ゴンベへ移動 16日(土): ゴンベ国立公園にてチンパンジー・トレッキング、ムワムゴンゴ村見学 17日(日): ゴンベ国立公園にてチンパンジー・トレッキング、ジェーン・グドールハウス 見学、キゴマへ移動 18日(月): ダルエスサラームへ移動・ダルエスサラーム市内見学 19日(火): ルアハへ移動・ルアハ国立公園にてゲームドライブ 20日(水): ルアハ国立公園にてゲームドライブ・ダルエスサラームへ移動 21日(木): ティンガティンガ村・スリップウェイ見学、ダルエスサラーム発 22日(金): 関西空港着
所感
今回が私にとって初めての海外であったため、持ち物や予防接種、空港での手続きなど、わからないことばかりで、タンザニアに到着する前から緊張していた。関西空港から同行者の方々とともに行動していたため、無事にタンザニアまで行くことができた。ダルエスサラームの町は、思ったよりも栄えている、と印象を受けた。車も多く、店や企業の看板が目立った。 15日(金)に見学したキゴマの町では、現地の人々の生活を垣間見ることができた。市場では

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

食料品や生活雑貨、伝統的な布製品などが売られていた。市場の見学中、物乞いや泥棒と思われる子どもの姿もあり、恐怖、驚き、悲しさが混ざった複雑な心境であった。現地の雰囲気を感じることができた。

16日(土)、ゴンベへ到着した。ゴンベ国立公園には3つのチンパンジーの集団が生息している。私たちが見られるのは、人に慣れているその中の1集団である。現地のトラックやガイドがチンパンジーを探しに先に森に入った。チンパンジーを発見したとの連絡を受け、私たちも出発した。チンパンジーのいるあたりまでの道中、私たちはヒヒやブルーモンキー、アカオザルやアカコロブスを見ることができた(図1)。私たちが初めてチンパンジーを見つけたとき、私はただその後姿を木々の間から遠くに確認することができたただけであった。さすがに野生のチンパンジーを間近に見るのは難しいものだと思った。しかしその後、私たちはチンパンジーを数メートルほどの距離で観察することができた(図2)。メスと子どもからなる小集団であった。日本で野生のニホンザルを見たことがあったが、同じように野生のチンパンジーが自分の目の前に、隔たりのなく同じ空間にいるというのは、何とも不思議な感覚であった。チンパンジーたちは、私たちの存在に過度に反応することもなく、樹上で休憩したり、食事をしたりしていた。



図1. ゴンベ国立公園のヒヒ。

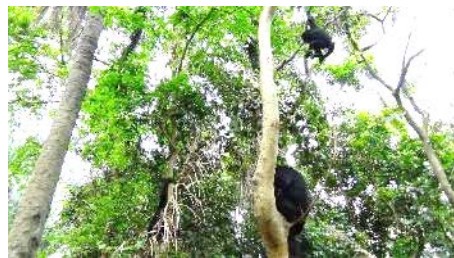


図2. ゴンベ国立公園のチンパンジー。

その後、また別の小集団を観察することができた。そのうちの1頭は、アリの巣に枝を差し込み、アリを釣っていた(図3)。現地ガイドによると、通常アリ釣りが見られる季節はもう少し先であるとのことであった。今回、このアリ釣りが見られたのは幸運であった。それ以外にも、チンパンジーが遊ぶ様子や、毛づくろいを行う様子などを近くで見ることができた。とりわけ、普段子どものチンパンジーを見る機会はないため、元気に遊ぶ子どもチンパンジーの姿は印象的であった。



図3. 枝を巣に差し込み、アリを釣るチンパンジー。

その後、私たちはゴンベからボートで移動し、近くのムワムゴンゴ村を見学した。村では、伝統的な踊りを見ることができた(図4)。さらに、カメラに興味津々の村の子どもたちに囲まれつつ、学校やヤシの実から油を抽出するための装置など、村の生活風景を見学した。



図4. ムワムゴンゴ村の風景。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

17日(日)も引き続きチンパンジー・トレッキングを行った。この日はチンパンジーを追いかけて山を登った。初日よりも険しい道のりであったが、アルファメスを含む数頭のチンパンジーを観察することができた。さらにこの日は、Jane's house にて、Dr. Anton Collins 氏にお話を伺うことができた。Anton 氏は、ゴンベ国立公園にてヒヒの研究を長年にわたり継続されている方である。ヒヒやチンパンジー、Dr. Jane Goodall 氏についてお話いただいた。ゴンベ国立公園には2日間しか滞在せず、チンパンジーの狩りなど見られなかった行動もあったが、野生のチンパンジーを観察することができ、有意義な時間を過ごすことができた。



図 5. タンガニーカ湖のほとりに建つホテルでは、様々な鳥を観察することができた。

18日(月)の午前中は自由時間であった。私は、ホテルの敷地内でくつろいでいた。ホテルはタンガニーカ湖のほとりにあり、タンガニーカ湖の眺望や、鳥の観察を楽しむことができた(図5)。タンガニーカ湖周辺の他の動物をじっくりと観察する時間がなかったのは残念であった。

19日(火)、小型飛行機でダルエスサラームからルアハへ向かった。飛行機からキリンを発見することができ、期待が高まった。ルアハ国立公園は、タンザニア最大、アフリカ内では2番目に大きい国立公園である。現地ガイドによれば、管理のため270名ほどのレンジャーが滞在しており、学校もあった。昼食後、ゲームドライブに出かけた。車に窓はなく、風を感じながら動物たちを近くで観察することができた。観察したすべての動物の名前を挙げることはできないが、数多くの動物をみることができた(図6)。その日の夜は、川辺に建つロッジに宿泊した。夜には色々な動物の音がした。私にはわからなかったが、現地ガイドによればハイエナの声もしたという。しかし、今回は実際のハイエナの姿を確認することはできなかった。翌20日(水)も公園を見学し、初日よりも多くの種類の動物を観察することができた。動物園で見るとはまた違う動物たちの姿を見ることができて感激である。一方で、ハイエナの他にもリカオン、ヒョウなど、今回見られなかった動物も多い。2日間ではとても満喫しきれないほど数多くの動物が生息していた。

21日(木)は、ティンガティンガ村を訪ねた。ここでは、ティンガティンガと呼ばれる絵が数多く売られていた。作者によって少しずつ絵の雰囲気は異なり、興味深かった。その後、スリップウェイを見学した。ここには新しいショッピングモールがあり、随分と都会的であった。訪れる町ごとに雰囲気が異なり、楽しむことができた。

総じて、本ツアーは非常に有意義であった。筆舌尽くしがたいほど充実した10日間であった。本出張を通じ、野生動物だけでなく、さまざまな町や人々、文化に出会うことができた。ぜひスワヒリ語を学んでまたタンザニアを訪れたい。また、タンザニアに限らずいろいろな国や地域にでかけ、見聞を広めていきたいと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

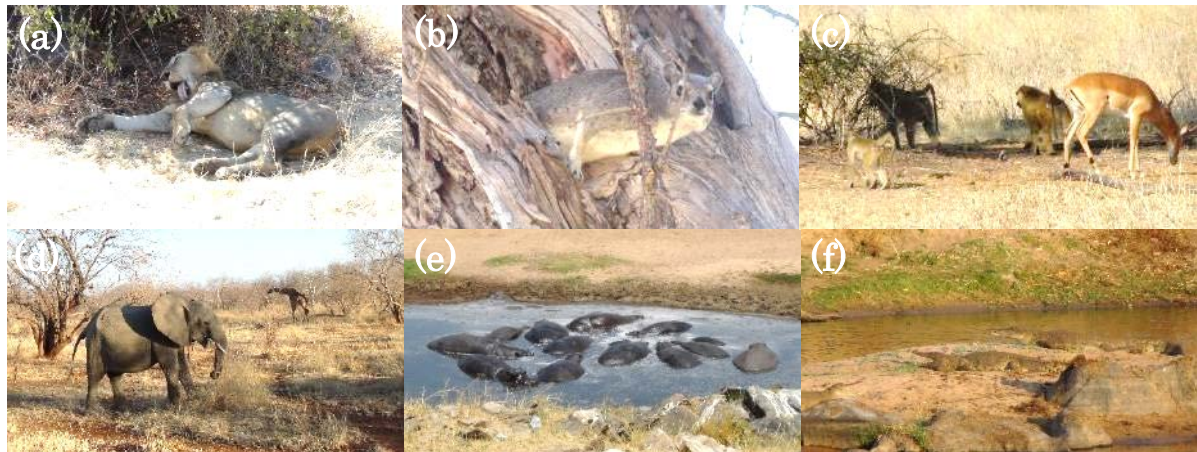


図 6. ルアハ国立公園で見ることができた動物の例：(a)ライオン、(b)ハイラックス、(c)インパラとヒヒ、(d)ゾウとキリン、(e)カバ、(f)ワニ。

6. その他（特記事項など）

本出張において、大変多くの方にお世話になりました。まず、本ツアーへの参加の機会を与えていただいた PWS の先生方、準備にあたって色々ご手配いただいた PWS 支援室の皆様、株式会社マイチケット 藤原氏に感謝申し上げます。京都大学理学研究科 仲澤伸子氏には、通訳や案内をはじめツアー中多岐にわたってご支援いただきました。深く感謝申し上げます。京都大学霊長類研究所 湯本貴和教授をはじめとする同行者の皆様、京都大学野生動物研究センター 伊谷原一教授、京都大学理学研究科 中村美知夫 准教授、ゴンベ国立公園でお話をお聞かせくださった Dr. Anton Collins 氏、タンザニアでお世話になりましたドライバー、トラック、ガイドの皆様に深く感謝申し上げます。また、渡航にあたって助言をいただいた熊本サンクチュアリの皆様にお礼申し上げます。